

## 第 59 回 JIAアーバントリップ見学会の報告

実施日：2009年1月28日(水)

テーマ：「建築家槇文彦氏と建築」～都市、建築、人～

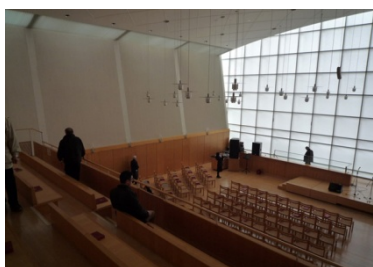
- 見学先 1. ローレックス東陽町ビル (東京都江東区)  
案内者 若月 幸敏氏 (槇総合計画事務所)
2. 東京キリストの教会 (東京都渋谷区)  
案内者 志田 巖氏 (槇総合計画事務所)
3. 旧朝倉邸、ヒルサイドテラス I～VII期 (東京都渋谷区)  
案内者 志田 巖氏 (槇総合計画事務所)

第 59 回コーディネーター 藤吉秀樹 (藤吉秀樹建築計画事務所)

「ローレックス東陽町ビル」



「東京キリストの教会」



「ヒルサイドテラス」



「旧朝倉邸」



「槇文彦氏レクチャー」



## 見学後記

今から20数年前ボクがまだ学生だった頃、建築に目覚めるきっかけとなったのは代官山のヒルサイドテラスでした。40代建築家の中にはボクと同じような思いを持たれている方も多いのではないのでしょうか？今回のアーバントリップはその槇文彦氏の建築を巡る旅。自然と期待が高まります！

最初に訪れたのは江東区の**ロレックス東陽町ビル**です。到着してまず目に入ってきたのがガラス・ガラス・ガラス。永代通り沿い一杯に広がるガラスのファサードです。どうしてこれほどガラスを感じるのかといいますとサッシュ枠が薄く、その背後にある丸柱も200φと非常に細いのです。これ



は皮膜と骨格という考えで、センターコア＝背骨で全体をがっちり固めて横力に抵抗させ、窓周りの円柱＝肋骨で鉛直荷重だけを担当、その上をガラスが皮膜として覆うという構造によるものです。内部はセンターコアとそれをぐるりと一周する執務空間。廊下とのパーティションもガラスが多用されておりどこにいても自然光を感じることができます。最上階にはカフェテリアがあり、こちらも自然光がたっぷり入る快適

な空間になっています。時計修理は集中力が必要な作業。ローレックスさんでは休憩時間に従業員さんがリラックスできることを第一に考えて、いられるようです。時計の精密加工のイメージと槇さんのシャープさ。それがうまくマッチした作品だと思います。

次は渋谷区にある**東京キリストの教会**です。山手通りに接するように台形のガラスファサードが



顔を向けています。そしてそれがそのまま礼拝堂の形となっているのですが外から見る限り「こんな車の音がうるさい中で礼拝ができるのだろうか？」という疑問が浮かびます。しかし礼拝堂に入ってみると先ほどまでの騒音が全く聞こえません。平面図を見ないとこのガラスがファサードのガラスと同一面なのかと疑いたくなるほどです。しかしこのガラスは厳密には同じではないのです。間を1mほど空けたダブルスキン

になっており、そこにフィーレンデルの構造体を収めているのです。これにより驚くほどの遮音性能を発揮しています。このガラスはグラスファイバーティッシュが挿入されており、その乳白のスクリーンが外部からの光を柔らかく室内に運び入れてくれます。それが白と天然木を基調にした礼拝堂を明るく温かみのある空間に仕上げているのです。見学当日はやや曇りでしたのでふわっとした明るさでしたが、これが晴天の時はスクリーンに構造体の影がくっきりと映り、また夕暮れ時には西日でオレンジ色に染められるそうです。その様相の変化を見るためだけにもう一度訪れてみたいくなります。

代官山の**旧朝倉邸**です。ここはヒルサイドテラスの建主であられる朝倉さんのご自宅でしたが現



在は重要文化財に指定されています。大正ロマンを感じさせる趣のある造りですが特筆すべきはその材料の質でしょうか。使われている木材が良いものばかりで建具などは今でも狂いがなくすっと開けることができます。また今では手に入らないゆらぎのあるガラスも味わい深さを演出してくれています。

そしていよいよ**ヒルサイドテラス**です。道に沿って造られた奥性のあるフォルム。そしてそのス



ケール感。街と呼応する建築とはこういったものなのかと改めて思います。外壁の仕上げが吹付けタイル、磁器タイルそしてアルミパネルとその時代に合った表現方法に移行していくのも25年という歳月をかけて造られたことを物語っています。このような背景を持った建築は今後もそう生まれたいのではないのでしょうか？建築界の宝です。

最後にヒルサイドフォーラムにて槇文彦氏との質問形式の対談です。コルビジェのソファに



そっと座る槇さん。まずはご自身の建築人生を振り返って優しい口調で淡々と話し始めます。やはり巨匠です。オーラが漂っています。話題は建築の質、設計の進め方、建築は発見、言語と建築、と進みます。最後のほうの「槇さんがきっかけで建築を始めた人も多いと思いますが」の問いかけに「ボクは教祖じゃないから」とやや照れたように笑われていたのが印象的でした。近代建築から現代へと確実に一

時代を築いた巨匠。しかしその飽くなき探究心は留まるところを知らず、まだまだ新しい世界を切り開いて行かれるご様子です。

最後にツアーを企画して下さった実行委員の皆様、後援をして下さった東京ガスさんに感謝の意を表します。

記：藤田直樹（藤田直樹建築設計事務所）